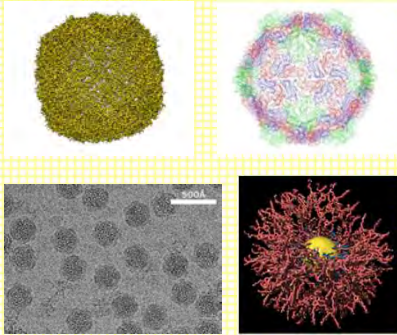


「クライオ電子顕微鏡」

産業界での利活用

※クライオ電子顕微鏡
タンパク質などの試料を急速凍結することで、構造を保ったまま測定できる最先端の装置。



※分析画像例



2022年

◎日時 11月24日(木)

参加費
無料

- ・講演:13:30~15:00
- ・見学:15:00~(現地参加者のみ)

◎会場 東北大学 片平キャンパス
多元物質科学研究所 西1号館

※現地定員20名(先着順)

※講義はオンライン(Zoom)でも同時配信

◎講師 東北大学 多元物質科学研究所 所長
寺内 正己 氏

◎申込期限 11月18日(金)

お申込は下記URLまたはQRコードより必要事項をご入力下さい。



<https://www.shinsei.elg-front.jp/miyagi2/uketsuke/form.do?id=1666162385913>

東北大学 多元物質科学研究所に導入された世界最高レベルの性能を持つ「クライオ電子顕微鏡」について、産業界での活用例や次世代放射光施設との比較・相補性などをご説明いただきます。また、現地参加の方は実際に顕微鏡を見学できる貴重な機会となります。

皆様のご参加をお待ちしております。

主催:宮城県 協力:東北大学 多元物質科学研究所

技術相談のワンストップ窓口

KCみやぎ
推進ネットワーク

身近な大学・高等専が企業の皆様からの
技術相談にワンストップ対応するネットワークです。

【プログラム】

1. 開催挨拶

2. 講演

(1) ソフトマテリアル研究拠点の紹介

東北大学 多元物質科学研究所 所長 寺内 正己 教授

(2) クライオ電子顕微鏡について

～産業界での利活用や放射光施設との比較等について～

東北大学 多元物質科学研究所 所長 寺内 正己 教授

(3) 質疑応答

(4) 東北大学 産学連携機構の取組の紹介

東北大学 産学連携機構 柿崎 慎也 特任准教授

(移動・休憩)

3. 見学会

【クライオ電子顕微鏡】

タンパク質などを急速凍結することで、その構造を保ったまま測定できる装置。

今回東北大に導入された装置は従来のタンパク質だけでなく、有機材料や有機・無機ハイブリッド材料の測定にも適しており、環境・食品・ヘルスケアなど幅広い分野での応用研究が期待される。

また、放射光施設との相補利用により硬い材料から柔らかい材料までの可視化が実現する。

※クライオ：低温の という意味。

【講師紹介】

東北大学 多元物質科学研究所 所長
ソフトマテリアル研究拠点 共同代表



寺内 正己 教授

(研究テーマ)

電子顕微鏡を用いた物性解析手法の開発と応用

・文部科学大臣表彰 科学技術賞 (開発部門)

(2016)

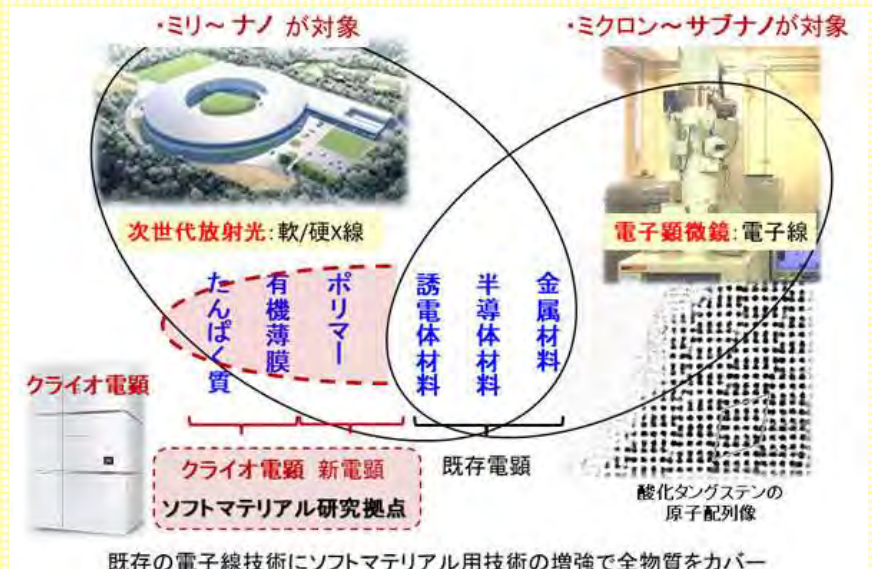
・山崎貞一賞 (測定評価分野) (2015)

他受賞多数。



←東北大に導入された装置

→放射光(X線)と電子顕微鏡(電子線)の相互補完



【お問い合わせ】

KCみやぎ推進ネットワーク事務局

TEL:022-211-2721

Mail:kc@pref.miyagi.lg.jp

(出典:「ソフトマテリアル研究拠点HP」より)